



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社横河ブリッジホールディングス
 コード番号 5911 URL <http://www.ybhd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高田 和彦
 問合せ先責任者 (役職名) 財務IR室長 (氏名) 中岡 康次 TEL 03-3453-4116
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	103,264	1.7	12,893	44.3	12,965	42.3	8,670	42.3
2020年3月期第3四半期	101,580	△5.1	8,935	4.2	9,110	4.2	6,092	12.1

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 11,590百万円 (86.6%) 2020年3月期第3四半期 6,211百万円 (46.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	209.57	—
2020年3月期第3四半期	147.27	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	163,841	101,502	60.2	2,393.92
2020年3月期	152,583	92,048	58.6	2,159.88

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 98,711百万円 2020年3月期 89,410百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	17.00	—	20.00	37.00
2021年3月期	—	22.00	—	—	—
2021年3月期（予想）	—	—	—	30.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2021年1月27日）公表いたしました「期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	140,000	1.3	16,000	24.2	16,000	23.4	11,000	22.2	266.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	45,564,802株	2020年3月期	45,564,802株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	4,330,557株	2020年3月期	4,168,870株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	41,374,990株	2020年3月期3Q	41,372,856株

(注)自己株式数には、「従業員持株会専用信託」の信託財産として所有する当社株式および「役員向け株式交付信託」の信託財産として所有する当社株式を含めて記載しております。

(2021年3月期第3四半期末 221,300株、2020年3月期末 60,000株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	9
売上高、受注高及び受注残高(連結)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①受注高

橋梁事業につきましては、当第3四半期(2020年10月1日～2020年12月31日)においても、中日本高速道路・根尾川橋他2橋、西日本高速道路・大豊インターチェンジ～南国インターチェンジ間耐震補強I(その2)、愛知県・新濃尾大橋A1-P5などの大型工事の受注をすることができ、当第3四半期累計期間(2020年4月1日～2020年12月31日)における橋梁事業の受注高は638億2千万円(前年同期比18.8%増)となり、過去最高の水準となりました。

エンジニアリング関連事業につきましては、コロナ禍の影響によりシステム建築事業の受注は低迷を余儀なくされておりますが、事業全体の受注高は412億7千万円(同9.7%増)となりました。

先端技術事業につきましては、精密機器製造事業の受注の増加により、受注高は34億2千万円(同45.9%増)となりました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期累計期間における受注高は1,085億3千万円(同15.8%増)となりました。

②経営成績

当社グループの当第3四半期累計期間における売上高は1,032億6千万円(前年同期比1.7%増)となりました。また、営業利益は128億9千万円(同44.3%増)、経常利益は129億6千万円(同42.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は86億7千万円(同42.3%増)となり、各利益の数値は第3四半期累計期間として過去最高を更新いたしました。以下事業別に記載いたします。

(橋梁事業)

橋梁事業につきましては、長期大型工事の竣工が集中しました上半期以降も概ね順調に推移し、売上高は626億7千万円(前年同期比6.1%増)、営業利益は91億2千万円(同43.8%増)となり、第3四半期累計期間として過去最高の業績となりました。

(エンジニアリング関連事業)

エンジニアリング関連事業につきましては、売上高は366億2千万円(前年同期比7.6%減)、営業利益は37億6千万円(同28.7%増)となりました。システム建築事業はコロナ禍が長期化する中、一部案件の先送りや見直しの影響により受注が伸び悩みましたが、損益管理の強化により採算は改善し増益となりました。今後は先送りされました案件に関する受注の確保を図ってまいります。

(先端技術事業)

先端技術事業につきましては、受注の増加により売上高は34億7千万円(前年同期比48.7%増)、営業利益は6億3千万円(同141.2%増)と何れも前年同期を上回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ112億5千万円増加し、1,638億4千万円となりました。流動資産は、「受取手形・完成工事未収入金等」が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ51億9千万円増加しました。固定資産は、株価の上昇等により投資その他の資産が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ60億5千万円増加しました。

負債は、前連結会計年度末に比べ18億円増加し、623億3千万円となりました。これは主に、「支払手形・工事未払金等」が減少し、「短期借入金」が増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ94億5千万円増加し、1,015億円となりました。その主な要因は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」を計上したことによるものです。この結果、自己資本比率は60.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

売上高につきましては、システム建築事業の回復の遅れにより、前回予想(2020年10月28日発表)を下回る見込みです。一方、営業利益につきましては、橋梁事業の損益改善が進みましたため、前回予想を上回る見込みです。以上のことから、当期の連結業績予想を下表のとおり修正いたします。また、これに伴い期末配当予想を従来の1株当たり25円から30円に修正いたしました。詳細は本日発表の「期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2021年3月期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2020年10月28日発表)	144,000	14,000	14,000	9,700	234.32
今回修正予想(B)	140,000	16,000	16,000	11,000	266.08
増減額(B)-(A)	△4,000	2,000	2,000	1,300	—
増減率(%)	△2.8	14.3	14.3	13.4	—
(ご参考) 前年同期実績 (2020年3月期)	138,144	12,883	12,969	9,004	217.61

当社グループでは第5次中期経営計画(2019年4月～2022年3月)が進行中であり、今期はその2年目となります。コロナ禍の下、システム建築事業が計画未達の状態推移しておりますが、好調な橋梁事業の上振れにより、営業利益と1株当たり当期純利益の目標を1年前倒しで達成の見込みとなりました。最終年度となる来期の売上高は今期を上回る見込みですが、想定以上の水準となる今期の営業利益を超えることは難しいのではないかと考えております。詳細は本日発表の「横河ブリッジホールディングスグループ「第5次中期経営計画」について(経過報告)」をご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	22,769	11,798
受取手形・完成工事未収入金等	65,666	82,830
たな卸資産	2,748	2,263
その他	2,709	2,199
貸倒引当金	△2	△0
流動資産合計	93,891	99,091
固定資産		
有形固定資産		
土地	15,200	15,145
その他(純額)	21,677	23,444
有形固定資産合計	36,877	38,589
無形固定資産	1,156	1,411
投資その他の資産		
投資有価証券	13,935	17,796
その他	6,721	6,951
投資その他の資産合計	20,656	24,748
固定資産合計	58,691	64,749
資産合計	152,583	163,841

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	20,345	17,027
短期借入金	—	4,000
1年内償還予定の社債	50	—
1年内返済予定の長期借入金	3,300	3,300
未払法人税等	2,192	2,500
未成工事受入金	2,361	1,844
工事損失引当金	4,851	3,826
賞与引当金	2,513	1,592
その他の引当金	62	104
その他	2,701	3,854
流動負債合計	38,378	38,049
固定負債		
社債	2,300	2,600
長期借入金	6,200	6,548
役員退職慰労引当金	625	346
株式報酬引当金	47	79
退職給付に係る負債	11,168	11,613
その他	1,815	3,102
固定負債合計	22,156	24,289
負債合計	60,534	62,338
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,185	10,185
利益剰余金	69,592	76,521
自己株式	△3,612	△3,920
株主資本合計	85,600	92,222
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,650	6,329
土地再評価差額金	159	159
その他の包括利益累計額合計	3,810	6,489
非支配株主持分	2,638	2,790
純資産合計	92,048	101,502
負債純資産合計	152,583	163,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	101,580	103,264
売上原価	86,373	83,971
売上総利益	15,207	19,292
販売費及び一般管理費	6,271	6,399
営業利益	8,935	12,893
営業外収益		
受取利息	0	4
受取配当金	284	276
持分法による投資利益	31	65
その他	72	81
営業外収益合計	389	429
営業外費用		
支払利息	67	69
コミットメントフィー	15	136
前受金保証料	45	31
団体定期保険料	47	49
その他	38	70
営業外費用合計	214	357
経常利益	9,110	12,965
特別利益		
固定資産売却益	9	0
受取保険金	93	3
その他	0	0
特別利益合計	103	4
特別損失		
固定資産処分損	3	76
関係会社株式評価損	22	—
災害による損失	72	—
特別損失合計	98	76
税金等調整前四半期純利益	9,115	12,892
法人税等	2,859	3,981
四半期純利益	6,255	8,911
非支配株主に帰属する四半期純利益	162	240
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,092	8,670

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	6,255	8,911
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△44	2,678
その他の包括利益合計	△44	2,678
四半期包括利益	6,211	11,590
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,048	11,349
非支配株主に係る四半期包括利益	162	240

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	橋梁事業	エンジニア リング関連 事業	先端技術 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	59,082	39,643	2,335	518	101,580	—	101,580
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	59,082	39,643	2,335	518	101,580	—	101,580
セグメント利益	6,343	2,926	263	300	9,833	△897	8,935

(注) 1. セグメント利益の調整額△897百万円は、全社費用等であり、主に当社の総務・人事・経理部門等の管理部門に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	橋梁事業	エンジニア リング関連 事業	先端技術 事業	不動産事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	62,678	36,625	3,472	487	103,264	—	103,264
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	62,678	36,625	3,472	487	103,264	—	103,264
セグメント利益	9,124	3,765	635	279	13,804	△911	12,893

(注) 1. セグメント利益の調整額△911百万円は、全社費用等であり、主に当社の総務・人事・経理部門等の管理部門に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. その他

売上高、受注高及び受注残高(連結)

期 別	前第3四半期 連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	増 減 (△印は減)	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
区 分	金 額(百万円)	金 額(百万円)	金 額(百万円)	金 額(百万円)	
売上高	橋梁事業	59,082	62,678	3,595	81,230
	エンジニアリ ング関連事業	39,643	36,625	△3,017	52,934
	先端技術事業	2,335	3,472	1,137	3,290
	不動産事業	518	487	△31	689
	合 計	101,580	103,264	1,684	138,144
受注高	橋梁事業	53,738	63,825	10,087	69,404
	エンジニアリ ング関連事業	37,634	41,278	3,643	51,175
	先端技術事業	2,350	3,428	1,078	3,746
	合 計	93,723	108,532	14,809	124,326
受注残高	橋梁事業	108,022	102,688	△5,333	101,541
	エンジニアリ ング関連事業	43,548	48,450	4,901	43,798
	先端技術事業	1,061	1,459	397	1,503
	合 計	152,633	152,598	△34	146,843

(注) 売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を除いた金額です。